

第165号

# ちりふ文化

2020年1月1日

発行所 知立市文化協会

知立市文化会館内  
(パティオ池鯉鮒)

TEL 0566-83-0151

FAX 0566-83-0242

http://chiryubunkyou.katch.ne.jp  
メール: chiryubunkyou@katch.ne.jp

「大正」は遠くなりにけり  
生れし年何の記憶も無き出発点

天野マスミさん  
大正14年12月生

元教員。短歌では明治神宮歌会ほか数々の全国歌会での受賞歴がある。  
平成24年知立文化賞受賞。体操講師。

市の観光ガイドボランティア・紙芝居「まつの会」所属。「戦争はダメ!」と声を大にして戦争体験を市の施設や学校で語る。また自分史やマスミ撰集を発行するなど活躍は多岐に渡っている。気取らず温かな人柄で、

今日も自転車で忙しく走行中。



文協最年長、四つの元号を過ぎててきた立春短歌会所属  
天野マスミさんが、歌とともに人生を綴つて下さいました。



靴底のゴムは大事と靴高価  
黒きモノへの青春時代  
寒い満州の兵隊さんを思い、冬でも足袋や靴下をはかず頑張つていまし  
た。昭和17年12月練り上げ卒業。母  
が銘仙の着物で作つてくれたモンペ

「昭和」とは子供の頃より戦時下の下駄履き登校薙草履また  
小学生の時に支那事変が起き、物資は不足気味でした。戦地に行かれる兵隊さんに「干人針」が教室に回ってきて一人一針、女子のみで真心こめて縫いました。一日に幾人も依頼があり、先生の許可の上授業中でもしてきました。出征に間に合わせるために道の辻に立ちお願いする方もいました。

身震いして悔しがつたことを今でも覚えていてます。天皇のお言葉を初めで聞き、担当していた6年男子寮で寮長先生も私も寮母さんも無言で部屋に入り悔し涙でした。3月12日

敗戦の8月15日悔しくて眠くもせずに日記にぶつけ

「平成」はアツという間の三十年  
短歌に体操趣味の発見

で全国大会に度々入賞、福祉の里では障がいの方の短歌講師を15年勤め、歌集『暁光』も2回発行。友達6人各々の歌集作りに協力。また、毎週2教室で約50名の友に体操の号令をかけています。

知立文化賞受賞の栄誉告げたくて父母夫仰ぐ真澄の室の86歳で大腸がんの手術をし、人生諦めかけていましたが、バーッと明るくなりました。

すすめられボランティア活動空見上げ  
今日もいそいそ自転車走らす

湯を沸かしたりして産婆さんを手伝つたと話してくれました。

で名古屋園町小へ通勤。衣類は衣料切符で購入する時代でした。

減税奉公勝つを信じて懸命に学童疎開の児童を連れて

サイパン島の日本軍全滅、九州へ

敵機襲来。昭和19年6月大都市の3

年生以上は疎開から集団疎開に行

くことになりました。私は御園国民

学校の1年担任でしたが、19年8月

へと集団疎開に出発しました。

11日児童295名、教員15名で宇治山田



第42回

# 文化のつどい盛大に開催

6月8日(土)・9日(日) 美術部門展・こども二コ二コひろば・「紙ぞもー」体験、華道部門「俳句をつくってみよう」体験、華道部門展「俳句による華道展・生け花」体験教室一般参加部門による呈茶・茶道教室一般参加部門も含め、中央公民館において開催されました。創作部門展では、各会場巡回され、スタンプラリーにより、会員の作品提供は好評で、多くの来場者の方々に楽しんでいただきました。

